

特集●アレルギー対策—花粉症・食物アレルギー・アトピー等への対応

わが国のアレルギー対策の現状と今後の展望—喘息死ゼロ作戦を中心に—厚生労働省健康局疾病対策課 日下 英司
アレルギーの克服に向けた最近の研究成果と今後の展望—国立病院機構相模原病院 秋山 一男
アレルギー疾患の発症関連要因—福岡大学医学部公衆衛生学 田中 景子・三宅 吉博
地域におけるアトピー・アレルギー対策—保健所での母子保健・学童期の取り組みから

—板橋区健康生きがい部(保健所)予防対策課 阿部 敦子
学校におけるアレルギー対策の課題と今後の対策—文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 岡田 就将

花粉症の研究と対策の最前線

① 花粉症発生源対策の現状と今後の展望—林野庁の取り組みから—林野庁森林整備部研究・保全課 渋谷晃太郎

② 花粉アレルギーの高感度測定法の意義と応用—山形県衛生研究所 高橋 裕一・阿彦 忠之

食物アレルギーの研究と対策の最前線

① 食物アレルギーの疫学と発症・重症化予防に関する研究—国立病院機構相模原病院臨床研究センター 今井 孝成

② 食物アレルギー表示に関する課題と展望—順天堂大学医学部公衆衛生学教室 丸井 英二

●視点

アレルギーは何故増えたか?—ラホイヤアレルギー免疫研究所名誉所長 石坂 公成

●特別寄稿

アメリカとヨーロッパ, それぞれの豊かさ—同志社大学経済学部教授 橋本 俊詔

あ と が き

私が近代西洋医学を学んだ1980年代までは、患者が民間療法等を利用していると知った医師の多くは、それを非科学的な行為としてやんわりと否定するか、自分の行う治療とは切り離して扱っていたように思います。

近年米国を中心に西洋医学の限界が指摘されるようになり、相補・代替医療のエビデンス研究の進歩等を背景に、わが国の医学界においても統合医療が注目されてきているのには、時代の移り変わりを感ずる。

そして、これは本特集内の瀧澤先生の言葉をお借りすれば、「歴史を越えて、常に正統的医療への対抗文化として伝統医療やそれにもとづく健康法が存在してきたことは、人間の多様な生の全体を現代医学がなお十分に対象化していないことを示している」のかもしれない。

一方で、近代西洋医学の進歩と寿命の延長により、現代人の医療への期待はふくらむばかりです。その多様なニーズに応え、患者中心の医療を提供していくためには、わが国における相補・代替医療のエビデンスの集積と、統合医療をチームで実践できる医師や保健医療福祉スタッフの養成が急務と言えそうです。

さらに、相補・代替医療が住民を中心とした疾病予防や健康づくりの切り札になるかどうかは今後のお楽しみです。が、今回特集したヨーガや温泉療法などの実際は、皆様ご自身のヘルスクエアにもすぐにお役立ていただける内容かと思えます。

亥年の疲れを新年に持ち越してしまった方、温泉につかって久保田先生の「総合的生体調整作用」を実感してみませんか。(品川靖子)

公衆衛生(第72巻 第2号) 2008年2月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行: 株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所: 三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所: (株) 東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン: デザイン・プレス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLIS** (© 日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田 羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都杉並区杉並保健所

高島 毛敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

医学は科学、しかし 100% の病気克服はありえず。万能でないことも確かなこと。職業柄か、医学の不確実性をいつも忘れず心に置いています。だからこそ、病気にならず健康でい続けることがとても大事と思っています。頼れるのは、結局は自分。健康の秘訣を追究して、今得ている答えは、結局は自らの「心のあり方」が自らの健康を創る、ということです。いつも穏やかでほっこりした心でいたい。でも 1 日働く心にも垢が溜まるから、1 日の疲れや心の汚れを落とすため、夜は湯船にアロマオイルを数滴入れて、いい香りに包まれそっと目を瞑る。お風呂での静謐なひとときで、心身ともにリフレッシュ。健康のためにアロマと瞑想とお風呂療法、取り入れております。皆さんは? (野中)

(担当/野中・天野)